

「食」を  
通じて



心なごむ  
時間を

クローズ  
アップ  
よしの

## “ほつ”とできる場所でおかあさんの味を届けます。

地域の「おかあさん」や地域おこし協力隊、吉野町社会福祉協議会職員の皆さんがあかあさん食堂を運営しています。

### 三茶屋おかあさん食堂

吉野見附三茶屋の木の子文庫は、絵本や児童書を中心とした私設図書館です。ここには本だけではなく、木のボールプールなどの木のおもちゃもたくさんあります。本や木に囲まれた、ほつとするこの空間は、月に1度、おいしい香りに包まれ、たくさんの方の笑い声でいっぱいになります。「三茶屋おかあさん食堂」の開催日です。

三茶屋おかあさん食堂は、食を通して、小さなお子さまから高齢者の皆様の居場所や交流の場として、吉野町社会福祉協議会が地元のボランティアの方々と実行委員会を組織して運営してきました。厨房では朝8時半から、和気あいあいとした雰囲気の中、調理が始まります。△



この取り組みは、昨年、上市の旧わたなべ呉服店で「食堂わたなべさん所」が立ち上ったことが第1弾。□「ミで人気が広がっていく中、中竜門地区でも開催したいとの声があがり、地域のお母さんたちがボランティアとして参加してくれることになり、地域食堂第2弾として5月に三茶屋おかあさん食堂がスタートしました。



### ほつができる居場所づくり

11時を過ぎた頃から地元の女性グループやご夫婦、子ども連れのご家族などが続々と訪れ、おかあさん食堂は活気にあふれます。食事を待つ間、子どもたちとパパさんは本を読んだり、木の滑り台で遊びます。ママさんたちは赤ちゃんを抱きながらおしゃべりを楽しみ、一人で訪れた女性は店内で販売されている、手づくりの雑貨や可愛い絵ハガキを手に取って見ていています。メインテーブルは、大きな相席といつ



1

①メインテーブルはお昼の12時には満席に。②子ども連れの方も安心な、靴を脱いで上がるスペース。大型のおもちゃもたくさんあって子どもたちも大満足。③バナナのロールケーキはこの日の一番人気のスイーツ。④米粉のシフォンケーキ（“おかあさん”特製スマモのジャムと生クリームを添えて）と夏らしい鮮やかな色のシソジュースも“おかあさん”お手製。⑤ワラビとじゃがいもと油揚げの煮物も絶品。ワラビは“おかあさん”的お知り合いからのおすそ分け。

三茶屋おかあさん食堂で使う食材は、おかあさん食堂実行委員会のメンバーであり、吉野見附三茶屋で野菜市などを実施している「活き活き町づくり産・産・参」から提供される新鮮野菜です。また、地元で調達のできない食材は近くのスーパーで手に入るものを使用するので、「気軽に作れる家庭料理」をモット

た感じ。隣り合つたお客様同士で自然と会話が生まれたり、先に食事が終わつたお客様が席をゆずり、座卓へと移動してゆつくりデザートを味わつたり、実家に親戚が集まつたような雰囲気です。一人で訪れても、グループで訪れて木の子文庫は訪問者をまるごと包んでくれるような居心地の良さがあり、またご飯を食べに来たいと思わせてくれます。この日は約40食が完売しました。

## 地元食材を活用します

トーとしたメニューが毎回登場します。数種類用意されるスイーツは実行委員メンバー“おかあさん”たちの手づくりケーキです。青々とした柿の葉をお皿に敷いて、その上にケーキをのせるという“おかあさん”的な気遣いがうれしい。地域の憩いの場として定着しつつある「三茶屋おかあさん食堂」。住民の皆さんのがっつりできる居場所づくりの取り組みはこれからも続いていきます。また、自分の地域でも地域食堂を開きたいという方は、吉野町社会福祉協議会までご相談ください。

※ランチ500円。ケーキセットはランチとセットでプラス250円。

### ◆吉野町社会福祉協議会

◆木の子文庫（開館時）TEL（39）9220（閉館時）TEL（39）9007（上田）  
閑役場総合政策課広報広聴室  
TEL（32）9090



利用者の声

赤ちゃん連れでも安心。子どもたちも楽しみにしています。



おかあさん食堂の日に食事に来るのは初めてでしたが、以前から木の子文庫は利用させてもらっていたので、子どもたちもここへ来ることを楽しみにしていました。絵本もたくさんあり、子どもたちは家よりもこちらの方がよく本を読みます。

また、離乳食を温めもらえたり、1人の子に手がかかっている時でも誰かが他の子たちをみててくれる所以赤ちゃん連れでも安心です。お料理も、実家でご飯を食べている様なやさしい味で、ほっと一息つける時間を過ごせます。ママ友ができたり、地域の方との交流もできるので、また利用したいと思います。

◀写真左から 向坊縁くん、邦世さん、実くん、結ちゃん